

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4151080043		
法人名	医療法人 源勇会		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	佐賀市川副町大字早津江263番地		
自己評価作成日	令和 6年 11月 28日	評価結果市町村受理日	令和7年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和 6年 12月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設施設に、医療機関、介護保険施設、有料老人ホームがあり、入居前、入居後に於いて利用者のニーズに応じた施設の選択が可能。ホームには、看護師の配置もあり、日々の健康観察を行い、病気の早期発見や治療に繋ぐ事ができ、職員は、24時間、医療機関や医師との連絡を取れ、利用者、家族共に安心できる暮らしの提供ができる。
利用者のできる事、得意な事について継続し取り組むことができるようサービス計画書に取り入れ、ホーム全体での取り組みとなる様、カンファレンスの前には全職員が意見やアイデアを出しあっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建てでしっかりした造りの2ユニットの建物の中心には広々とした中庭があり、ホーム内は明るく、室内にいながらも四季を感じることができる。また、同一敷地内に母体の病院や老人保健施設等があり、必要に応じてサービスを選択することもできる。避難訓練等の災害対策にも注力されており、入居者が安心して生活できる環境が整えられている。職員全員で入居者一人ひとりの長所や性格などからホームでどんな役割を担ってもらおうと生活に張り合いがあるのかを検討し、入居者一人ひとりがいきいきと生活できるケアの実践に日々取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
	A	B				A	B		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り後に、週替わりで5つの理念を唱和し、理念に沿ったケアができるよう努めている。	5つの理念を週替わりで理念の唱和をされている。その他、研修会等で理念の実践について各自で考える機会を確保されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のまちづくり協議会に参加し、住民の方々との交流や、地域のお祭りへの参加、外出支援時などに交流出来ている	地域のまちづくり協議会へ参加したり、地区の神社の行事へ入居者と参加するなどして地域との交流を図られている。また、近隣のグループホームとも情報交換も活発に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症対策は継続中にて、地域の方との交流も少なく、理解や支援を求める活動はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で得た情報をもとに、行事や活動に取り入れている。参加できていない職員に対し会議録の閲覧などの呼びかけはできていない。	2ヵ月毎に対面での運営推進会議を実施されており、入居者家族にも参加を呼び掛けられているが家族の参加は少ない為、会議録を入居者家族にも発送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町づくり協議会、運営推進会議にて、日頃より相談や協力できる関係づくりに努めている。	佐賀中部広域連合、地域包括支援センター等と長年にわたり連携協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回は勉強会を開催し、毎月、委員会活動を行い、拘束に関して周知行っている。玄関の施錠については、ご家族に説明行い、チャイムの設置や電話対応をお願いしている。	身体拘束適正化委員会を毎月開催されており、身体拘束については行われていない。しかし、離棟の恐れのある入居者がいらっしゃるため、玄関等は施錠してケアが行われている。	現在は離棟の危険性の高い状況であるため、常時施錠して対応されているが、今後、入居者の状態が落ち着けば短時間でも施錠を解除してケア行われることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会で、日頃のケアを見直す時間を設けている。介助の仕方、言葉使い等について、意見を出し合い、改善策も検討し、職員全体で共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、情報の収集や学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して、不安や疑問を解決できるように利用者、家族の話を聞き、説明や同意を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は、電話、ライン、面会時に受付でき、早急に対応できるように努めている	入居者家族は要望や意見についてライン等で気軽に発信することができ、利用者や家族からの要望等についてはホーム内で採用している。個人情報を守られたシステムを活用し、職員間で共有されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や申し送り時など職員の意見を聞く機会は設けられている。実施可能な意見については検討し反映できるよう努められている。	管理者は職員の性格等にも配慮して、適宜、声を掛けるようにしている。職員からの意見等については管理者会議等で運営側にも伝えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に法人内の部署長会議が開催され、働きやすい環境、条件の整備や検討が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力や受講要件に応じ、参加の呼びかけ行われている。又、参加したい研修については希望すれば受講は可能		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の町づくり協議会への参加や運営推進会議に地域のホームに参加して頂くなどで、同業者との交流できる機会はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面会の機会を作り、アセスメントの作成、今後の暮らしについての思いを聞きとり、可能なことは実現できるように検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配や不安な事について聞き取り、今後の対応についてわかりやすく説明を行い不安の軽減に努めている。要望等はラインや面会時にも受け付けていること説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報、家族の聞き取りから得た情報を基に、必要な支援の検討を行い、サービス導入に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の念を忘れずに、なじみの関係を築くことはできている。暮らしを楽しく快適にと感じることができるよう、笑顔で接し常に感謝を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の過ごし方などを動画や写真で伝えたり、電話にて近況を伝えるなど、安心して頂けるよう気がけ、日頃の介護についての相談をする等し関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所への外出は出来ていないが、家族との関係が途切れないよう、近況報告や写真の送付などの取り組みは行っている。	SNSを活用して家族と写真のやり取りをこまめに行われている。手紙や携帯電話なども必要に応じて活用して馴染みの関係の継続支援を行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他ユニットの利用者間でも、出身地が同じ者同士での関係づくりを支援し、互いに支えとなる関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内医療機関でお会いする機会はあるが、その後の近況を伺ったりはあるが、相談や支援の実績はないので、そのような機会があれば、必要な支援は行えると良いと思う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りや表情や行動から、暮らしの意向や希望の把握に努め、その人らしい暮らしができるよう話し合い検討している	意向の伝達の困難な入居者に対しても、日々のちょっとした表情や気づき等を職員全員で共有して意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの聞き取り、添書などの情報を基に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後の過ごし方や心身状況の観察を基に、申し送りにて、現状を共有し、関わり方や関わり後の様子を記録し、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の直面する課題について、関係する職種との連携を図り、本人、家族の意向を尊重した対応を検討し、介護計画に活かしている。	職員全員で一人ひとりの入居者についての個別で会議の場をもうけている。意見を出し合い、プランについての検討を行い、入居者の状態に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは個別記録に記入し、即対応が必要なことに関しては申し送りにて検討し、カンファレンス時に検討できるよう意見表に記入するなど、必要に応じ介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームで対応可能なものについては対応し、ほかの支援やサービスの可能性については法人代表に確認し取り組めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の機会が少なく、十分に社会資源の活用はできていないが、傾聴ボランティアや外出の機会を持ち、より生活を楽しめるよう支援していきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	介護職員も24時間医師や医療機関と連絡が取れる体制があり、併設の医療機関をかかりつけ医とされている方が多い。他の医療機関とも情報提供行き良好な関係づくりに努めたい。	同一敷地内の医療機関の他に、希望がある場合には従来のかかりつけ医の受診の際に日頃の状態の情報提供などの支援を行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の暮らしで気にかかることは気軽に相談でき、アドバイスを受けたり、受診に繋ぐなど、早期発見、治療に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設の医療機関への入院時は、面会等で顔見知りの関係作りに努め安心して治療に取り組めるよう支援している。他の医療機関の際には、電話連絡や医療機関の連携があり、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師からの病状説明は、必要に応じ受けていただくよう勧めている。家族の意向もふまえてホームでできることを共有し取り組んでいる	希望がある場合には、母体の医療機関と連携を取りながら終末期のケアを行っている。状態に応じて医師からの病状説明を行い、本人・家族の意向を尊重した支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修として、年1回心肺蘇生や緊急時対応についての研修会に参加できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害に応じた避難訓練を定期的に行っている。地域の方の訓練参加はないが、法人内の部署連携の訓練も行っている。	毎月避難訓練を行い、全職員で災害に対するスキルを高められている。避難訓練を行う場合は、周辺の病院や施設とも連携しながら実践的な訓練を実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇として、勉強会を開催したり、日々言葉使いには注意喚起も行っている。	接遇の勉強会を年単位で担当を変えて行っている。声掛けや個室やトイレの開け閉め等に配慮した対応を心掛けられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしの中で、自己決定ができる場面づくりを意識し、可能な範囲で自己決定できるように支援している。必要に応じ家族の同意も求めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	病院受診は優先しているが、暮らしにおいては、生活習慣を大切に、個々のリズムで暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ることをできる範囲で自身で取り組んでもらい、できていないことを補い、本人らしさを大切に支援している。使い慣れた化粧水や乳液などを使い、その人らしさに気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レク時などに献立を伝え、食事が楽しみになるよう努めている。準備は、感染対策もありできていないが、台拭き、お膳拭きは役割として介護計画に基づき取組まれている。	行事食やお菓子づくりなど、食事を通して季節感等を感じてもらえるよう支援されている。また、台ふき等それぞれの長所を生かした役割を担ってもらい、生活に張り合いを取り入れられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取表を用い、減少傾向の方には、別シートにて細かく摂取状況を把握し、医師への報告や、ご家族に好みの食品を要請するなどし、必要なエネルギー摂取できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員に対してはできていない。介護度の高い方については実施できている個々の歯磨きの仕方や様子は全体で共有し、歯科往診や口腔ケアにつないでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録の情報を基に、物品の使い分け、誘導のタイミング、医師への相談などを行っている。できることを大切に、トイレ内にバケツの設置やバット類の保管、回数カードの利用など個々に応じ支援している	トイレで排泄できるように一人ひとりの要望や状態に沿った支援を行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動の大切さを周知し、必要に応じ医師に相談し内服調整し、散歩や水分量、お茶ゼリーの提供でべんぴ解消に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人の気分や体調、受診や面会などの状況の応じ、柔軟に変更でき、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している	季節に応じて、ゆず湯など入浴を楽しむことができるように工夫されている。また、入居者の状態に応じて、午前中や気分がよい時に声掛けし、できるだけ入浴してもらえるように支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間の生活状況や好まれる生活習慣について、申し送りなどで情報を共有し、日中は就寝に影響ない程度の休息を勧め、休息や安眠になるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬の保管袋には、薬名、服用時期などを張り出し、分かるように工夫している。詰所のカレンダーには、臨時薬の終了時期を書き出している。服用については不明な点については薬局、薬剤師に確認したり、症状の変化については医師に相談報告するなど努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること、得意なことを活かした役割を介護計画に基づき取り組んでもら得るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症対策の為、日常的な外出支援は実施できていない。必要に応じ医師の許可、家族の同意を得て実施している。	希望時や状況に応じて、同一敷地内の事業所への散歩や近くのスーパーやコンビニなどへの買い物などの外出支援を行われている。また、ドライブや神社への参拝等も年間行事として計画されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持ある方は数名である。買い物時は、自身で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方も数名あり自身で家族や友人と連絡を取り合われている。希望時には電話できるように努めている。又、ご家族の協力で葉書などを準備してもらいやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居室には、各自制作した作品を掲示し、季節や月ごとにその時期に応じた作品に触れ、季節感を感じたり、トイレにはお知らせを掲示する等、暮らしやすさに配慮し、中庭には、季節ごとに花が植えられ四季を感じられるようになっている	ホールは中庭に面しており、天井が高く天窓もあり、明るく、ゆとりのある配置となっている。季節ごとに入居者の作品を展示されており、季節を感じてもらえるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、楽しく過ごせる空間づくりや座席の配置に気を配っている。共用空間での一人の時間の確保は、難しい面もあり、居室で過ごす方も多。常に人の気配を感じていたい方は共用空間にて過ごすこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込みは少ないが、家族が本人の暮らしを想像し準備された家具や家族写真を飾り、関係を深めるきっかけとして活用している	特に持ち込みの制限はされておらず、位牌や冷蔵庫等持ち込まれていた方もおられた。部屋の移動などの希望がある場合もできる範囲で対応されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来ることを把握し、怪我無く過ごせるよう過剰な介護は避け、残存機能を活かせるように、掲示しお知らせしている。		